経済統計

経済統計部門は大別して統計学，計量経済学，計量ファイナンス，の 3 つの分野から構成されている。計量ファイナンスは，2004 年度から発足した 5 年一貫教育システムの一分野である「統計・ファイナンス・プログラム」に関連して開講科目の大幅な拡充を行った結果，当部門の主要な分野の一つとなったものである。いずれの分野も，経済現象を始めとするさまざまな現象に関する統計データを分析する手法について教育・研究に携わるものである。当部門の教育体系の特徴は，学部から大学院までの一貫した積み上げ方式にある。以下では，各分野毎にその教育科目・研究について概説する。

まず，統計学に直接関連する主要な講義科目としては，学部新入生を対象とした 100 番台必修科目の「統計学入門」，200 番台科目の「確率・統計」，300 番台科目の「統計学」，「経済統計論 A，B」，400 番台科目の「上級統計学Ⅰ」，「確率論Ⅰ」，「確率・統計特論」，500 番台科目の「上級統計学Ⅱ」，「確率論Ⅱ」がある。研究面では，主として統計学や数理ファイナンス分野で,時系列解析，逐次解析，生存時間解析,ノンパラメトリック,ウェーブレット,派生証券価格理論,天候デリバティブ等が主たる研究対象となっている。

計量経済学関連の主要な講義科目としては，200 番台選択必修科目の「基礎計量経済学」，300 番台科目の「数量経済分析」，400 番台大学院コア科目の「中級計量経済学」，同じくコア科目の「上級計量経済学Ⅰ」，そして「計量経済学特論」，500 番台科目の「上級計量経済学Ⅱ」がある。研究面では，マクロ経済活動を時系列的に実証分析する研究，構造変化の有無の検証などの研究が行われている。

計量ファイナンス関連の講義科目としては，300 番台科目の「金融工学概論」，400 番台科目の「中級計量ファイナンス」，「ファイナンス経済論 A，B」，「計量ファイナンス A，B」，「計量ファイナンス特論」がある。研究面では，派生証券の価格決定問題等の数理ファイナンス，ミクロ的な金融時系列の計量的な研究などが行われている。

上記 3 分野以外にも情報処理関連の講義科目として，300 番台科目の「情報科学総論 A，B」，400 番台科目の「情報処理論 A，B」を随時開講し，計量経済学，統計解析，計量ファイナンス等におけるソフトウエアー使用の情報科学的側面に焦点を当てて解説を行っている。

以上のように，経済統計部門は，経済学を学ぶ上で数量的な分析方法の知識が不可欠であるという認識から，学部生に対する必修あるいは選択必修的な講義，および大学院生に対するコア講義など，多くのサービスコース的な講義を始めとして，専門性のある講義までバラエティーのある講義を提供している。上記において「＊＊＊特論」という 400 番台科目は，定期的に開講される科目ではなく，種々の専門的な内容の科目を折々の需要に合わせて提供するものである。

なお，本研究科における統計学・計量経済学の関連科目の系統図は，以下を参照されると良い。
http://www.econ.hit-u.ac.jp/~ecosta/BUMON/course-g.pdf